

い  
わ  
く  
ら  
農園倶楽部の  
取り組みについて



ケアマネジャー

荒木 博子

社会福祉士

板倉 知宏



現在コロナ禍の為、外出が出来ない状態が続いていますが、高齢者の方にとっても大きい影響が生じています。

京都市岩倉地域包括センターでは、今まで認知症カフェの取り組みを行って参りましたが、3月より開催出来ない状況が続いています。

そこで、このコロナの時代に感染を予防しながら出来る事はないだろうかと考え、農業に従事した方が多い岩倉地域の特性も踏まえ、地元の方に土地をお借りして農園を始める事としました。農園は屋外で行う為、換気に気を使う事もなく、また広いところで行うので、密を避けられる点がこのコロナの時代に合っているのではないかと考えました。

実際の作業としては、雑草が茂った所を耕す等の下準備を3月より始めました。以前は水田だったところですが、長年耕作放棄地となっていたので、耕すのも一苦労でした。石も大小沢山混じっており、一つ一つ取り除いていきました。下準備がある程度終えたところで、地域の方や認知症カフェに來られていた方に声をかけ4月より本格的に開始する事が出来ました。

まずは畝を作り種や苗を植える事から始めました。当初はきゅうりトマト、ししとう、トウモロコシそしてサツマイモと多種多様の物を作る事にしました。地域包括の職員は素人集団でしたので、地元の詳しい方をお願いして一から指導して頂きました。肥料も自分たちで作る事となり、近所の神社などで落ち葉を拾い集めて持ち帰り、堆肥作りも行いました。基本的に作業日は毎週土曜日と決めて、